



8月の歳時記(葉月 / August)

暦の上では秋ですが……



★ はなび

日本の花火は世界一精巧で華麗です。それは幾多の花火師たちが精魂を込めて、文字通り命を懸けて伝えてきた伝統技術だからです。花火の原型は『のろし』で紀元前に、中国の錬丹術師によって偶然発明され、軍事技術者へと渡り、武器に使用され、南宋時代に爆竹など花火が市場に現れる。現在のような花火は、14世紀後半にイタリアのフィレンツェで始まったと言われております。日本には、文永11年(1274年)蒙古軍が来襲した際に武器として火薬が持ち込まれ、花火として干渉される様になったのは江戸時代。中国人が打ち上げた花火を徳川家康が見たことがきっかけで、将軍や大名の間で花火が流行する事になり、その後庶民に伝わる。

川開きの時、本格的に花火が打上げられたのは、享保17年(1732年)の大飢饉(コレラを含む)がきっかけで、8代将軍吉宗は、慰霊と悪疫退散を祈って水神祭を行い、その時に花火を打ち上げた。これが隅田川花火大会の原型らしい。…諸説あり

★ 『か〜ぎや〜』『た〜まや〜』 おなじみ花火大会の掛け声！ 鍵屋は1695年初代弥兵衛が創業の花火屋で、現在15代目。(信仰のお稲荷さんの持っている鍵から屋号とした) 一方玉屋は鍵屋8代番頭が1810年に暖簾分けして創業(玉はもう一方のお稲荷さんが持っている玉から)。両国橋を挟んで下流を鍵屋、上流を玉屋が受け持ち、観客が素晴らしい花火を見て掛け声をかけるようになった。玉屋の方が圧倒的な人気であったが1843年大火事を起こし追放・屋号断絶となった。現在でも掛け声の多いのは玉屋、江戸時代の鍵屋と玉屋の競い合いを想像しながら見上げる夏の空の花火、いかが。


★ こよみ: 八朔(1)、立秋(7)、山の日(11)、お盆/終戦記念日(15)、処暑/地蔵盆(23)、



熱中症・コロナ感染予防

一刻も速い気付き、対応が命を救う！

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

- 1 暑さを避けましょう 
- 2 適宜マスクをはずしましょう
- 3 こまめに水分補給しましょう
- 4 日ごろから健康管理をしましょう
- 5 暑さに備えた体作りをしましょう

「新しい生活様式」では「**人との距離の確保**」「**マスクの着用**」「**手指消毒の徹底**」「**3密回避**」などが求められています

環境省 厚生労働省 「令和2年度の熱中症予防行動」より

<マスク着脱のポイント>

○屋内

- 原則、**マスクを着用**
- 人との距離(距離2m以上)が確保できる中で、会話をしない場合には、**マスクは必要なし**



○屋外

- 原則、**マスクは必要なし**
- 人との距離(2m以上)が確保できない中で、会話をしている場合には、**マスクを正しく着用する**



<熱中症予防のポイント>

- 運動をするときは、**人との距離を確保し、マスクを外す**
- のどが渇いていなくても、**こまめに水分補給**
- エアコンを上手に活用し、使用中でも**こまめに換気**(扇風機などの併用も)



<引き続き、「基本的な感染症対策」の継続を！>

手洗い・消毒、うがい、ドアノブなどの共用物を触った後や食事の前後、帰宅時など、こまめにおこないましょう。

コロナ感染予防の基本3原

手洗い



マスク



消毒



あわてるな ゆとりのなさが 事故のもと
心と体の健康管理、メリハリつけてリフレッシュ!

ご安全に!